

## シラバス入力項目

項目	記載内容
授業概要	授業の全体を把握できるように概要を記述します。
到達目標	本授業を履修し、学習の目的を達成できた結果、どのような知識・能力等を修得することが期待されているのかを箇条書きで記述します。
授業計画と準備学習	各回の授業内容を可能な限り具体的に記述します。 さらに、各回に対応する準備学習を具体的に記述しますが、「授業時間外の学習」にまとめて記述することもできます。
授業の特色	含まれる能動的学習（アクティブ・ラーニング）の要素を選択（複数可）します。 <input type="checkbox"/> 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 <input type="checkbox"/> フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習 <input type="checkbox"/> 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 <input type="checkbox"/> ゲストスピーカーの招聘 <input type="checkbox"/> AIMS-Gifu を活用した授業と学習支援 <input type="checkbox"/> レポートの添削や提出物の返却 <input type="checkbox"/> その他（ ）
学生のアクティブ・ラーニングを促す取組	本学の「アクティブ・ラーニング」の定義を踏まえて、文章で記述します。
使用言語	<input type="checkbox"/> 日本語、 <input type="checkbox"/> 英語、 <input type="checkbox"/> その他（ ）を選択します。
TA,SA 配置予定	TA, SA による支援体制を選択します。 <input type="checkbox"/> TA による授業支援 <input type="checkbox"/> SA によるピアサポート <input type="checkbox"/> その他（ ）
基盤的能力 専門的能力	基盤的能力に関する重点指導を選択します。 進： <input type="checkbox"/> 計画・ <input type="checkbox"/> 実行・ <input type="checkbox"/> 管理 伝： <input type="checkbox"/> 傾聴・ <input type="checkbox"/> 発信・ <input type="checkbox"/> 把握 考： <input type="checkbox"/> 課題・ <input type="checkbox"/> 創造・ <input type="checkbox"/> 論理 そのうえで、専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載します。
授業時間外の学習	授業時間外の事前の準備や事後の展開等にどのような学習が必要とされるかについて <b>具体的に</b> 記述します。授業内容の準備や確認、理解の深化のための自宅や図書館等での学習について記述します。必要に応じて、AIMS-Gifu, 図書館等を利用した学習方法と内容についても記述します。
成績評価	到達目標に対する学習成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を示します。 授業は出席することが前提なので、「出席点」という表現は避けて、「参加度」のように表現します。
到達度評価方法	到達目標に箇条書きで示した各学習成果の到達度を評価する際、どこに着目するのか、その具体的な判断の基準を記載します。
テキスト	使用する場合は必ず記載します。その際、出版元、出版年は必ず記載します。
参考文献	何らかの参考文献を記載するようにします。その際、出版元、出版年は必ず記載します。
備考	(1)履修に際して学生に希望すること、予め有していることが望ましい知識、履修（抽選）条件等があれば記載します。 (2)質問等のため、学生が担当教員と連絡を希望する場合に対して記載します。 ・オフィスアワー ・連絡先 ・受講に必要な経費 (3)高等教育段階の教育費負担軽減新制度に係る「実務経験のある教員による実務経験を生かした実践的授業」に該当する場合は、その旨を記述します。

## 入力項目の説明

### (1) 授業概要

学生が授業の全体像を把握できるよう、授業で扱う主題等を簡潔に記述します。

### (2) 到達目標

本授業を履修し、学習の目的を達成できた結果、どのような知識・能力等を修得することが期待されているのかを箇条書きで記述します。学生自身がその目標を理解し、どの程度到達できたのかを確かめながら、学習を必要に応じて修正し継続できるように、具体的な行動等で観察できるような記述とします。

また、「到達目標」は「到達度評価方法」と対応します。

### (3) 授業計画と準備学習

各回の授業内容を可能な限り具体的に記述します。

さらに、各回の学習内容に対して、学生の主体的な学習の助けとなるように、対応する準備学習を具体的に記述します。ただし、各回に対応させた準備学習が記述しにくい場合には、「授業時間外の学習」にまとめて記述することもできます。

### (4) 授業の特色

授業の特色を選択（複数可）します。全ての回において実施するというだけでなく、一場面でも該当するものがあれば選択とします。選択のない活動は、記述から削除し、選択したもののみを残します。

- 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表
- フィールドワーク、インターンシップ、ものづくり等の体験型学習
- 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用
- ゲストスピーカーの招聘
- AIMS-Gifu を活用した授業と学習支援
- レポートの添削や提出物の返却
- その他（                      ）

### (5) 学生のアクティブ・ラーニングを促す取組

次に示す本学のアクティブ・ラーニングの定義を踏まえて、学生の意欲的な学びを促進する取組について文章で記述します。学生の意欲を高めるための工夫であれば、授業のスタイルに捉わることなく、どのようなものでも積極的にアピールしてください。

別添の「シラバス記入の例」もご参照ください。

[岐阜大学のアクティブ・ラーニング]      (平成 29 年 2 月 22 日制定)

アクティブ・ラーニングとは、学生が自らを取り巻く課題や自ら見つけたテーマについて個人またはグループで探究する意欲的な学びである。

岐阜大学では、学生のこうした学びを支援する授業、またはその契機を与える授業をアクティブ・ラーニング志向科目と呼ぶ。

### (6) 使用言語

日本語、 英語、 その他（      ）から選択します。

授業において使用する言語を選択します。

本項目は、英語等の外国語による授業の実施状況の資料となります。

(7) TA,SA 配置予定

TA, SA による支援体制を選択します。

予算が確定しない段階であることも考慮して、「予定」としてあります。ただ、TA や SA が雇用できることを前提として、授業は設計されることになると考えますので選択することとします。本項目は、TA,SA の活用状況の資料となります。

TA による授業支援

SA によるピアサポート

その他 ( )

(8) 基盤的能力／専門的能力

基盤的能力に関する重点指導を選択します。授業で意図する能力について、をに変更して示します。

進：計画・実行・管理

伝：傾聴・発信・把握

考：課題・創造・論理

そのうえで、専門的能力や資質・能力に関して、育成を意図する指導について記載します。

(9) 授業時間外の学習

授業時間外の事前の準備や事後の展開等にどのような学習が必要とされるかについて**具体的に**記述します。授業内容の準備や確認、理解の深化のための自宅や図書館等での学習について記述します。必要に応じて、AIMS-Gifu, 図書館等を利用した学習方法と内容についても記述します。

授業時間外の主体的な学習の助けとなるように、どのような学習が期待されているのかを具体的に記述します。

(10) 成績評価

到達目標に対する学習成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を示します。

授業は出席することが前提なので、「出席点」という表現は避けて、「参加度」のように表現します。たとえば、定期試験(50%)、小テスト(20%)、参加度(30%)のように記述します。

(11) 到達度評価方法

到達目標に箇条書きで示した各学習成果の到達度を評価する際、どこに着目するのか、その具体的な判断の基準を記載します。

「到達目標」に対する学習成果の到達度を評価する際、どこに着目するのか、その具体的な判断の基準を記述します。

(12) テキスト

使用する場合は必ず記載します。その際、出版元、出版年は必ず記載します。

「テキスト」に記載された書籍は、図書館に整備される予定となります。

(13) 参考文献

何らかの参考文献を記載するようにします。その際、出版元、出版年は必ず記載します。

「参考文献」に記載された書籍は、図書館に整備される予定となります。

(14) 備考

① 履修に際して学生に希望すること、予め有していることが望ましい知識、履修（抽選）条件等があれば記載します。

② 質問等のため、学生が担当教員と連絡を希望する場合に対して記載します。

- ・ オフィスアワー
- ・ 連絡先
- ・ 受講に必要な経費

③ 高等教育段階の教育費負担軽減新制度に係る「実務経験のある教員による実務経験を生かした実践的授業」に該当する場合は、その旨を記述します。

## シラバス記入の例

項目	記載内容
授業概要	視聴覚教育におけるメディアの活用について、教育方法の史的展開からの位置づけを概観します。さらに、情報メディアの進展と教育での活用が学習理論を背景として教育的に意味づけられていることを理解します。これらの理解を背景として、メディアスペシャリストとして必要となる能力にもとづき、自らの学習成果をラーニングポートフォリオにより省察します。なお、適宜課題を示しながらグループワーク等の活動による学習を求めます。
到達目標	(1) 視聴覚教育の概要について経験を踏まえて説明し、視聴覚教材と学習理論について基礎的用語を用いて説明できる。 (2) 学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員におけるメディアスペシャリストとして必要な能力と社会的背景を説得的に説明できる。 (3) 自らの学習を適切に省察し、根拠に基づき叙述的省察を記述できる。
授業計画と準備学習	1. ガイダンス、教育方法としての視聴覚教育、学習の進め方、ラーニングポートフォリオ解説。 2. グループワーク・視聴覚教育の教育効果を経験から推論。 (・・・中略・・・) 15. ラーニングポートフォリオの相互交流。 ※準備学習については、「授業時間外の学習」に記載しています。
授業の特色	■ 討論やプレゼンテーションなど、学生による対話や発表 ■ 図書館やラーニングコモンズなど、教室以外の場所を活用 ■ AIMS-Gifu を活用した授業と学習支援
学生のアクティブ・ラーニングを促す取組	■ グループワークを取り入れることで、伝える力の強化を狙っています。 ■ プレゼンテーションをする機会を設けることで、他者に向けて発信することを体験します。 ■ 教室から実際の現場に出向いてフィールドワークを行うことで、一人一人が課題を発見できるよう努めています。 ■ 授業開始時に振り返りをさせて、今後の目標設定を促しています。 ■ 毎回、興味を持った点や理解し辛かった点を書いて提出してもらいます。それを見たらうで必要に応じて後の回で補足説明するようにしています。 ■ 基本的には講義形式で行いますが、学生と教員が議論する機会を設けていますので元気に発言してください。 ■ AIMS-Gifu に、授業で扱ったことや関連するテーマについて自由に議論できる場を設けています。ぜひご参加を。 ■ オフィスアワーは曜日や時間を限定せず在室時はいつでも対応します。疑問は放置せずすぐにどうぞ。学内外で私を見かけた時に気軽に呼び止めて頂いても構いません。 ■ アカデミック・コア学生スタッフには、この授業のポイントを事前に伝えていきますので、気軽に相談してみましょ。う。 ■ 講義で扱う事柄については、身近な事例を紹介しながら説明するように努めています。 ■ グループごとに競わせる簡単なゲームを取り入れています。
使用言語	■ 日本語、□英語、□その他 ( )
TA,SA 配置計画	■ TA による授業支援
基盤的能力 専門的能力	基盤的能力 進：□計画・■実行・■管理

	<p>伝：■傾聴・□発信・■把握 考：■課題・■創造・□論理</p> <p>専門的能力 教育方法・技術：総合的な学習経験と創造的思考力</p>
授業時間外の学習	<p>(1) 基本的な学習内容は授業時間外の e-Learning(ビデオ視聴を含む)を併用して進め、授業時間内には相互学習や討論を重視します。このため、AIMS-Gifuでの e-Learning により自己のペースで学習することが求められます。</p> <p>(2) 学習成果を整理し省察するためのジャーナルが求められます。AIMS-Gifuでの学習ジャーナル記述を通して、関連する内容について図書館等での文献調査により発展、深化する自学習や自主ゼミ等を期待しています。</p> <p>(3) ラーニングポートフォリオの作成には長時間を要するため、その根拠資料としてのジャーナルや自学習の成果等を適切に整理することが求められます。</p>
成績評価	<p>学習ジャーナル(30%)、確認テスト・定期試験(40%)、ラーニングポートフォリオ(30%)</p>
到達度評価方法	<p>(1) 視聴覚教育メディアの習得に必要な知識理解は、中間の確認テスト及び定期試験により評価します。</p> <p>(2) 視聴覚教育メディアや育成能力、社会背景等に関する深い洞察に基づく説得的記述を学習ジャーナルによりルーブリックに基づき評価します。</p> <p>(3) 自らの学習に対する省察をラーニングポートフォリオの記述や根拠資料により評価します。</p>
テキスト	<p>ありません。AIMS-Gifu に資料を掲載します。</p>
参考文献	<p>山口榮一著「視聴覚メディアと教育」玉川大学出版部，2004 山内祐平編「デジタル教材の教育学」東京大学出版会，2010 日本教育方法学会編「デジタルメディア時代の教育方法」図書文化，2011</p>
備考	<p>担当教員との連絡等については、AIMS-Gifu に掲載します。</p> <p>第5回～第9回の講義では、学校図書館司書教諭，社会教育主事，博物館学芸員を講師に招き，“視聴覚教育におけるメディアの活用について”理解を深めます。</p>